

表の見方

要緊急安全確認大規模建築物 耐震診断結果公表内容

【小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
	△△小学校 校舎棟	△△市△△丁目△△小学校	①	(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断」(2001年版)	② Is/Iso=1.05 Ctu・SD=0.55	③		
	校舎棟						(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断」(2001年版)	Is/Iso=1.15 Ctu・SD=0.46

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
指針第1第二号に定める建築物の耐震診断の方法	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$
(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」1996年版、2011年版	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$
① (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」1990年版	② $Is/Iso < 0.5$ 又は $Ctu \cdot SD < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Iso$ かつ $0.3 \leq Ctu \cdot SD \leq 1.25$
			$1.25 < Ctu \cdot SD$
① (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」2001年版	$Is/Iso < 0.5$ 又は $Ctu \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	③ 左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Iso$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot SD$
(一財)建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Qu/\alpha \cdot Qun < 0.5$	$0.5 \leq Qu/\alpha \cdot Qun < 1.0$	$1.0 \leq Qu/\alpha \cdot Qun$ かつ $GIs < 1.0$
			$1.0 \leq GIs$
屋内運動場等の耐震性能診断基準	$Is < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq Is$ かつ $1.0 \leq q$

- ④ I 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
 II 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
 III 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

例:「△△小学校(校舎棟部分)」の安全性の評価

①「耐震診断の方法の名称」について一覧表、および附表で一致するものを確認します。

②一覧表の「構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果」欄の数値を確認し、附表の「耐震診断の方法の名称」から「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価」欄で該当するものを確認します。

③数値を基準値と比較します。

$$Is/Iso=1.05 \quad Ctu \cdot SD=0.55$$

$$1.0 \leq Is/Iso \text{ かつ } 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq Ctu \cdot SD$$

($Z \cdot G \cdot U=1.0$ による)

安全性の評価は区分Ⅲとなります。

④附表の注意書きで、区分の詳細をご覧ください。

※Iso値については、報告書に記載されている数値を採用しています。

※Z(地域指標)=1.0(建築基準法施行令による)、U(用途指標)=1.0、G(地盤指標)=1.0(公表対象すべてが、がけ地や軟弱地でないため)